

西暦 2025 年 12 月 4 日

2020 年 4 月から 2025 年 11 月に産業医科大学病院を受診し、
がん治療を終了し、緩和ケアチームが介入した
患者さん及びご家族の方へのお知らせ

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた情報の記録に基づき実施する研究です。このような研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（令和 3 年 3 月 23 日制定 令和 3 年 6 月 30 日施行）」により、対象となる患者さん及びご家族のお一人おひとりから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開するとともに、参加拒否の機会を保障することとされています。この研究に関するお問い合わせ、また、ご自身及びご家族の診療情報が利用されることを了解されない場合は、以下の問い合わせ先にご連絡ください。利用の拒否を申し出られても何ら不利益を被ることはありません。

1. 研究課題名

急性期病院における主治医の主観的予後予測（CPS）と実際の生存期間との乖離およびその要因解析

2. 研究期間

研究機関の長の許可日 ～2027 年 3 月 31 日

3. 研究機関

産業医科大学

4. 研究責任者

産業医科大学病院 緩和ケアセンター 講師 白石 朝子

5. 研究の目的と意義

がん患者さん及びご家族にとって、予後について考えることは辛いものではあります。予後を予測することは、治療方針について患者さんと話し合う 1 つのきっかけとなったり、療養先・療養方法の選定、今後、どう過ごしていくかにあたっても重要な目安となります。一方で、主治医の主観的予後（Clinician's Prediction of Survival; CPS）はしばしば過大評価/過小評価の偏りがあり、主治医間のばらつきが大きいことが報告されています。近年、予後予測に使用するツールには様々なものがありますが、主治医間の予測のばらつきがどういった要素で生じるかについて調べることでなるべく正確な予後を捉え、患者さん・ご家族にとってよい時間の過ごし方

を提供できる一助になればと考えています。

[目的]

この研究は、緩和ケアチームへ紹介された患者さんに関して、カルテの内容から、主治医（個人）の主観的予後（CPS）と実際の生存期間との乖離および医師間のばらつきを定量化することを目的とします。また、乖離の要因を調べます（例として、がんの種類や進行速度、医師の経験年数など）。

[意義]

主治医間の予測のばらつきがどういった要素で生じるかについて調べることで、なるべく正確な予後を捉え、患者さん・ご家族にとってよい時間の過ごし方を提供できる一助になればと考えています。また当院における傾向を確認することで将来的な教育介入方法の探索や日常臨床で簡便に使用可能な支援ツール導入について検討できることは日常診療の上で意義深いものと考えています。

6. 研究の方法

2020年4月1日～2025年11月30日の間に当院緩和ケアチームに紹介があり、かつ当院でがん治療終了後に緩和ケアへ移行した18歳以上の患者さんを対象とします。すでにカルテに記載されているもしくはカルテから得られる情報（がんの種類、血液検査データ、医師の予後についての説明内容、死亡確認日など）を収集し、解析を行います。

7. 個人情報の取り扱い

個人情報の公開はいたしません。データの解析の際には対象者を特定できないように氏名などの個人情報を全て加工（匿名化）します。

院内の規定に従い、研究の終了後に論文発表した後から10年間はデータを保管します。データ保管期間終了後、または研究の中止後は直ちに試料・情報管理者が個人を特定できないような形で情報を復元できないよう消去・廃棄します。

この研究への参加の拒否は自由です。研究への参加にご同意いただけない方は下記問い合わせ先にご連絡ください。この研究から対象外とさせていただきます。

8. 問い合わせ先

産業医科大学病院 緩和ケアセンター 白石朝子 TEL 093-603-1611

9. その他

この研究への参加に対する直接的な利益はありません。また、費用の負担や謝礼もありません。この研究は一切の利益相反はなく、産業医科大学利益相反委員会の承認を得ており、公正性を保ちます。